

ありがとう

心から とよおかから

出会いと感動を生んだ のじぎく兵庫国体

半世紀ぶりに開催された兵庫国体。豊岡市では、「ありがとう 心から とよおかから」をキャッチフレーズに、平成16年の台風23号でお世話になった全国の皆さんへの感謝の意を込めて実施しました。全国制覇を胸に志を高く持ち、大会に挑んだ選手たち。一期一会を胸に全国から訪れた人々を温かくもてなした市民の皆さん。いろいろな場面で出会いや感動が生まれ、心に残る国体となりました。



▲9月30日、神戸市ユニバー記念競技場で行われた総合開会式で入場行進する兵庫県選手団



▲9月16・17日、のじぎく兵庫国体の開催に向けて炬火リレーが市内をめぐった



▲卓球競技会場前には、豊岡高校美術部の皆さんが制作したイラストが出場者を出迎えた



▲10月5日、市民会館で行われた卓球競技会開催セレモニーで、ひかり幼稚園の園児たちが「はばタンダンス」で歓迎



▲市民ボランティアによる飾花プラントが会場周辺を彩り、歓迎ムードを盛り上げた



▲総合開会式では、女子陸上1,500m日本記録保持者の小林祐梨子さんが、元気いっぱい選手宣誓を行った



卓球競技（全種別） 10月6日～10日 豊岡市総合体育館

愛ちゃん効果で大盛況 豊岡出身の西岡姉妹も大活躍

大会初日は秋雨前線による大雨に見舞われ、大会運営への影響が心配されましたが、その後、天候が回復し、福原 愛選手の参加による“愛ちゃん効果”などで、連日、早朝から会場入口に長蛇の列ができるほど、大変な盛り上がりを見せました。

また、姉妹そろって成年女子の部に参加した豊岡市出身の西岡麻子選手、百子選手が大活躍しました。姉の麻子選手は、熊本県代表として準優勝、妹の百子選手は地元兵庫県の代表として3位に入賞しました。

なお、地元兵庫県は、成年男子と成年女子の2種目で3位入賞を果たしました。



▲競技会場では、大会初日から熱戦が繰り広げられた

▼終始攻めの姿勢で戦いに挑んだ西岡百子選手



▲力強いストロークで得点を重ねる西岡麻子選手



▲青森県代表の“愛ちゃん”。期間中、ハイレベルな技術を披露し、注目の的となった



▲国体選手のプレーを見ようと大勢の人が詰め掛けた



▲安全のため入場規制が行われ、整理券を受け取ろうと大勢の人が長蛇の列を作った

国体選手のプレーに釘付け



一般観覧者
小森 智美さん
(豊岡市桜町)

地元豊岡で国体が開催されるので、雰囲気を楽しもうと家族で見にきました。私は学生のころ卓球部に所属していたので、国内最高レベルのプレーに興味がありました。国体選手はすごいですね。夢中になってボールを追う姿に感動してしまいました。

真心込めたあったか鍋



コウノトリの郷鍋調理員
友田多佐子さん
(豊岡市三坂)

私たち豊岡女性交流会では、休憩テントで連日「コウノトリの郷鍋」を提供させていただきました。特に大会初日は悪天候で気温が低く鍋を召し上がった選手団や一般観覧者から「体が温まる」「おいしいです」と声をかけられました。本当にうれしかったです。

クラブ活動に活かしたい



プラカード
中西 敦之さん
(豊岡南中学2年)

僕は、オープニングセレモニーと表彰式でプラカードを持って選手を誘導する役を担当しました。大勢の人でとても緊張しました。卓球部のキャプテンを務めているので、日本の最高のプレーを目にした経験を、今後のクラブ活動に活かしたいです。